



位置図

駒形橋 竣工：昭和2年
 「浅草通り」にあり、橋名は、西詰にある「駒形堂」に由来している。駒形堂は、浅草寺の本尊である観音像が、この辺りから引き上げられたことにより建てられたと言われている。かつては、この辺りに「駒形の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。

厩橋 (うまやばし) 竣工：昭和4年
 「春日通り」にあり、橋名は江戸幕府の御米蔵にある米を運ぶ荷駄馬用の馬小屋があったことに由来している。初めて架橋されたのは1874年(明治7年)。かつてこの辺りは、「御厩河岸(おんまいがし)」と呼ばれており、その河岸に「御厩(おんまい)の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。

蔵前橋 竣工：昭和2年
 「蔵前橋通り」にあり、橋名は地名に由来している。蔵前の地名は、江戸幕府の御米蔵で大阪・京都の蔵とともに三御蔵(みつおくら)と呼ばれていた「浅草御蔵」がこの地にあったことに由来している。かつては、この辺りに「富士見の渡し」と呼ばれた渡し舟があった。

柳橋 竣工：昭和4年
 架橋に関する最も古い記録は1698年(元禄11年)、神田川が隅田川へ流れ込む場所にあるため、はじめは「川口出口の橋」(かわぐちでぐちのはし)と呼ばれていた。橋名は、橋畔にある柳の木に由来しているとの説が有力と言われている。かつては、「柳橋芸者」で有名な花街であり、正岡子規の句にも「春の夜や女見返る柳橋」と詠われた。

浅草橋 竣工：昭和5年
 「江戸通り」にあり、かつて奥州街道から江戸中心部への入口となるこの場所に、江戸城警護のための江戸三十六門の一つ「浅草御門」が設置され、同時に「見附橋」が架けられた。橋名は「浅草御門」に由来して「浅草橋」と呼ばれるようになったと言われている。

左衛門橋 竣工：昭和5年
 「左衛門橋通り」にあり、橋名の由来は、この地に庄内藩藩主・酒井左衛門尉家の下屋敷があったことから、この付近の神田川沿いを左衛門河岸と呼んでいたことによる。初めて架橋されたのは明治初期。

忍岡高校 ※竣工年月は現在の橋のものです。
 蓬萊園跡の大銀杏 浅草橋保育園

浅草橋地区センター 浅草橋区民館 中央図書館浅草橋分室
 浅草橋公園 浅草橋見附跡 篠塚稲荷神社
 浅草橋公園 浅草橋見附跡 篠塚稲荷神社
 浅草橋公園 浅草橋見附跡 篠塚稲荷神社